

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 0272700741 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 信和会 | | |
| 事業所名 | グループホーム こもれびの家 | | |
| 所在地 | 青森県八戸市南郷大字島守字中野沢22-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成30年7月20日 | 評価結果市町村受理日 | 平成31年1月18日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな場所にあり、鳥のさえずりや虫の声を聞きながら、季節の移り変わりを身近に感じて生活することができる。
夏祭りや文化祭等、法人で行う大きな行事を楽しめるほか、冬季以外は外出行事を企画し、利用者に気分転換していただいている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは「地域の認知症高齢者が家庭的な環境の中で、安定した健康で明るい生活が送れるように」との思いから開設し、カフェや文化祭、夏祭り等、法人とも協力しながら、地域との交流を図っている。
また、四季の移り変わりを感じることができる自然豊かな環境の中で、利用者がゆったりとした穏やかな時間を過ごせるよう、職員は日々の支援に取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-------------------|--|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 青森県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 青森県青森市中央3丁目20番30号 | | |
| 訪問調査日 | 平成30年10月24日 | | |

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 目につく場所に理念を掲示し、職員各自が自分達の役割を自覚し、常に心に留められるようにしている。また、理念に基づいたケアができていないか、ミーティングで話し合いを行っている。 | 開設当初から掲げている理念のもと、法人と共にホームが地域社会で担っていくべき役割を理解しており、カフェの開催や地域行事への参加等を通じて、実践に繋げている。また、月1回のミーティング時に理念の確認を行い、職員は日々、利用者の心に寄り添うサービス提供に努めている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 町内会に入っており、清掃業務等に参加したり、法人で開催しているカフェに参加し、職員、利用者、地域住民との交流の機会を大切にしている。 | 地域の行事や草刈り等へ参加しているほか、法人と共にカフェを開催する等、日常的に地域住民と交流できるように努めている。また、ボランティアの受け入れ等も行っている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 散歩等を通じて、近隣住民や学校帰りの生徒に挨拶をしている。また、運営推進会議の場で、認知症の方への支援の取り組みについて説明している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 家族や地域の方、市職員から意見や情報をいただき、ミーティングで職員間で周知しながら、サービス向上に活かしている。 | 2ヶ月に1回、運営推進会議を開催しており、市職員や地域代表、高齢者支援センター職員、家族代表等の参加を得ている。行政からは介護関連情報、地域代表からは町内の情報・行事案内等があるほか、ホームから近況報告等を行い、出された意見を今後のサービスの質の確保・向上に繋げている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | ほとんどが運営推進会議で情報交換されることが多く、それ以外に市町村担当者とは行き来する機会はない。 | 運営推進会議に市の担当課職員が参加しており、その都度、報告や相談を行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束廃止の委員会を設置し、研修を通して身体拘束をしないケアの理解を深め、職員間で共有しながら取り組んでいる。 | 身体拘束廃止委員会を設置し、身体拘束マニュアルを備えているほか、法人の研修や内部研修への参加を通じて、全職員が理解を深め、身体拘束は行わないという姿勢で取り組んでいる。やむを得ず身体拘束を行う場合に備え、記録を残す体制を整えているほか、利用者の無断外出時に備えたマニュアルも整備し、運営推進会議委員や近隣住民へ協力を働きかけている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 虐待についての外部、内部の研修に参加している。また、業務の中で虐待となっていることがないか、職員同士で注意し合っている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | マニュアルを利用し、いつでも学ぶことができる。また、内部研修の1つに取り入れている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入所契約、解約時には時間をかけて丁寧に説明を行い、家族の不安や疑問の解消に努めている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 苦情や要望の受付窓口を明示している。外部からの苦情はホーム内の委員会で話し合い、利用者の立場に立った改善策を出せるように心がけている。 | 重要事項説明書にホーム内外の相談・苦情受付窓口の明記や苦情解決委員会を設置してアンケートを実施する等、利用者や家族が意見を出しやすい環境づくりに努めている。また、利用者の些細な変化を感じた時は、職員間で情報の共有化を図り、意見等を察するように取り組んでいる。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 管理者は月1回の運営会議に出席し、毎月のミーティングで報告している。そのミーティングには施設長が参加しており、職員の意見等を直接聞き、ホームの運営に反映させている。 | 月1回のミーティングは職員の意見交換の場となっており、施設長が直接職員の意見・提案を聞く機会となっている。また、研修会等へ参加の計画を立てて、職員のケアサービスの充実化に向けて取り組んでいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 法人独自の評価を設けており、目標や評価を見直す機会がある。職員の個人面接を行ったり、資格取得に向けた支援を行っている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員の経験年数や力量に合わせ、外部研修への参加を実施している。また、法人全体では研修委員会による伝達研修等を企画し、積極的に参加している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 他の施設との情報交換やネットワーク作りができる意識を持ち、グループホーム協議会の研修やグループワークに参加している。 | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 事前に利用者や家族等に見学してもらい、利用者の困っている事や不安を十分に聞くようにしている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 事前に訪問を行い、家族の不安や意向等を十分に聞き取り、対応できる事やできない事等を説明して、理解していただいている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談内容を整理し、必要な時は他のサービスにも相談しながら、利用者や家族にとって最適な方法を検討している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 昔の風習や料理の方法、戦争時代の苦しい体験等、利用者から学ぶ事が多く、人生の大先輩として尊敬し、関わりを持っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 利用者の日常の様子を報告し、困り事があれば家族に相談をしている。また、家族からの相談を受け、お互いにヒントやアイデアを出し合い、共に利用者を支えている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 親戚や友人が面会に来られた時は次回の面会をお願いしているほか、家族には外出をお願いし、馴染みの方や場所を訪れることができるようにしている。 | 職員は利用者一人ひとりの馴染みの方や場所、こだわり等の把握に努め、面会時や電話のサポート等を行い、利用者がこれまでの交流を継続できるように支援している。また、家族の来訪時には買い物や外食等を楽しんでいる。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者の身体状況や性格を考慮し、テーブルの位置や居室を工夫している。また、職員が間に入り、利用者が孤立しないように努めている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退所後も利用者の状況を電話等で聞いている。他のサービス利用となっても、機会があれば声をかけている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者から十分に話を聞いたり、表情や行動で把握するように努めている。家族に電話や面会時に様子を伺い、利用者寄り添うようにしている。 | 入所時の聞き取りにより、生活歴等から利用者の希望や意向の把握に努めている。また、日々の会話の中からも思いや希望等の引き出しに努めており、職員と利用者が一緒にゆったりと語り合う時間を設けている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 利用者や家族から聞き取りをしている。入所後も会話の話題として取り上げ、把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎日の個別の申し送りで把握し、状態の変化にはカンファレンスを行い、介護計画に取り入れている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 担当職員が月1回モニタリングを行い、介護計画作成時にはアセスメントを実施して、状態の把握に努めている。また、家族からの情報も活かし、職員で話し合い、介護計画を作成している。 | 利用者に寄り添い、見守りながら、意見の引き出しに取り組んでおり、日常生活における援助等を行うことで認知症の進行を穏やかにし、精神的に安定して健康で明るい生活を送れるように支援することを介護計画に掲げている。また、必要に応じて、家族や関係者等の意見を反映させている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 毎日、個別に記録をしている。また、申し送りを通して情報を共有し、介護計画に活かすことができるようにしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 通院、入退院時の送迎介助のほか、必要時は法人本部の介護用品を使用することができる。また、医療面での対応方法等も法人本部の看護師に相談することができる。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 消防署の協力を得て防災訓練を行っている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 利用者や家族の希望で決めている。また、受診は原則家族が行い、利用者の状態を把握しているが、家族が対応できない時には事業所が対応し、利用者が適切な医療を受けられるようにしている。 | 入所前の医療機関や希望する医療機関への受診について、基本的に家族に付き添いをお願いしているほか、協力医療機関は24時間対応の体制にあること、定期的な往診があること等も説明している。また、医療情報は常に記録し、電話連絡時や来訪時に再度確認を行いながら、情報の共有を図っている。 | |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 法人本部の看護職員に相談できる環境にあり、受診時や訪問診療の際は必ず状態の報告を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院にあたり、情報を提供している。入院中、家族に電話で状態を確認し、入院先へ行く等して経過を把握するようにしている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 終末期の方針はないが、重度化した際に家族や主治医と話し合い、今後の方向性を決めている。 | 協力医療機関や法人の看護職員と24時間の医療体制はあるが、ホームとして重度化や終末期の対応をしていないことを口頭で伝え、法人全体で支援することを説明している。また、職員は急変時・緊急時の対応方法を内部研修で学んでいる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時の対応方法を内部研修で受けたり、救急救命の講習を全職員で受講している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回、避難訓練を行っている。また、地域の協力を得られるよう、運営推進会議で自治会を通して呼びかけていただいている。 | 日中・夜間を想定した具体的な避難誘導策を作成し、年2回、避難訓練を行っている。また、地区消防署の協力のもと、避難誘導訓練を行い、その結果を参考に問題点や改善策を検討し、次回の目標を掲げている。災害発生時に備えて、食料や飲料水、寒さ対策用品、日用必需品等を用意しているほか、運営推進会議の委員を介して地域住民へ協力を働きかけている。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 接遇マニュアルがあり、法人内で定期的に研修を行っている。利用者の人としての尊厳を守り、表情や言動に気をつけながら、言葉かけや対応を注意し合っている。 | 利用者の全ての言動を受け入れ、自尊心を損なわない対応に取り組んでいる。また、接遇マニュアルを作成し、定期的な研修を通じて、改善・向上に取り組んでいる。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | ゆっくとわかりやすく話し、利用者が自分で決められるように工夫している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 食事や水分補給、体を動かす時間等、ある程度の流れを決めているが、あくまでもその方のペースに合わせて、柔軟に対応している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 月1回、理・美容院の方が来所し、利用する際は利用者より確認を取り、希望に合わせてカットしていただいている。また、洋服を選ぶ際も利用者に確認しながら選んでいる。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者と一緒に準備をしながら、旬の食べ物を取り入れ、季節を楽しんでいる。また、一人ひとりが食器を片付けている。職員も同じテーブルで会話をしながら、食事をしている。 | 法人栄養士が献立を作成し、配送された食料を職員が調理しており、必要に応じて代替食の提供や調理法を工夫している。食事の摂取量や水分量は毎回記録し、不足分については補食代用品等で必要量を確保している。また、利用者はテーブル拭きや野菜の下ごしらえ等を率先して手伝っており、職員と一緒に穏やかに食事時間を過ごしている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事・水分量は毎日記録し、不足している方には嗜好品等で補食しながら、必要量の確保に努めている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 自力で磨ける方には声かけを行い、磨けない方へは介助にて毎食後に支援している。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | 排泄表を作成し、利用者個々の排泄パターンに沿って、トイレの声かけや誘導を行っている。 | 排泄パターンを記録・把握し、排泄の自立に向けた支援を行っている。排便に関してはトイレ利用に移行しつつあるが、体力の低下により、日中はトイレ利用でも、安眠を優先して夜間は紙オムツ使用で対応している方もいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 利用者の生活習慣や水分、食べ物、食べる量、運動等を考慮しながら、便秘の予防に取り組んでいる。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている | 利用者一人ひとりの好みの温度調節をして、急かさな対応を心がけている。また、希望により、午後の入浴も可能である。 | 入所時の聞き取りや入浴介助時等、普段の関わりの中から、利用者の入浴習慣や好みを把握している。ユニット毎に週2回の入浴としているが、通院や行事の関係等により、時間帯や曜日に関わらず入浴できるよう、柔軟な対応を行っている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 生活リズムを整えて夜間の良眠を図っているが、日中でも休息したい方には居室で休んでもらったり、ソファで横になってもらっている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の説明書をファイルに綴じ、全職員に周知している。内服確認を行い、症状変化については随時、かかりつけ病院と連絡を取り合っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 家事等、今までできていた事を活用し、役割として継続していけるように支援している。また、月1～2回の行事計画を立て、利用者の気分転換を図っている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | ホームの周りを散歩したり、歩くのが困難な方でも車イスを利用して外の風にあたり、気分転換ができるように支援している。 | 日頃から外気浴を楽しんでいただけるよう、天気の良い日はホーム周辺を散歩している。また、年間の行事予定を作成して外出支援に取り組んでいるほか、家族の面会時に一緒にドライブ等へ出かけている方もいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 管理ができる方には家族と相談し、お金を所持してもらっている。所持金のない方でもホームが立て替えて買い物をすることができ、希望があれば応じている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 基本的には自由に電話をかけられるが、相手の都合もあるため、確認を取りながら電話をかけている。手紙は特はない。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共有の空間は季節毎に時期に合った飾り付けをし、季節を確認できるように働きかけている。 | ホーム周辺は木立に囲まれ、窓から見える風景で四季の移ろいを感じられるほか、ホール内にも季節毎の手作りの作品を飾っている。また、共有空間はゆったりとしたスペースを確保しているほか、温・湿度や自然光を上手く調節しながら、利用者にとって居心地の良い空間づくりに努めている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ソファや食卓テーブルのほか、少し離れた場所に小さいテーブルを置き、気の合った利用者同士で過ごせるように工夫している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 利用者の使い慣れた物を持ち込み、安心して過ごせるように家族に伝えており、写真や仏壇を持ち込んでいる。 | 利用者が居室で居心地良く、安心してゆっくりと過ごせるよう、今まで愛用してきた物や馴染みの物の持ち込みを働きかけており、家族写真や仏壇、手作りの品々、テレビ等の持ち込みがある。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 手すりを設置しており、移動の際に使用している。洗面台が各居室にあり、できるだけ自立できるようにしている。また、目印を付け、排泄の自立を支援している。 | | |